



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目次

近代医学の黎明 デジタルアーカイブ ……………	1
水田文庫付属資料等調査 (1851年以降刊行図書)について ……………	5
《ブックトーク》 新年度に向けて学生に読んで欲しい本 ……	8
図書室紹介：ようこそ法学図書室へ ……………	9
秋季特別展 「そろばんと和算書」を開催しました ……	11
ホームcomingデー図書館行事 ……………	11
本学教員著作物の寄贈リスト ……………	12

近代医学の黎明 デジタルアーカイブ

— 医学部史料室へのご招待 —

蒲生 英博

はじめに

いきなりですが、拝領^{はだぎ}膚着^{みむら}って一体どのようなものかご存知でしょうか？ 華岡青洲^{みむら}に学んで尾張^{おわり}の地に漢蘭折衷外科^{なりども}をもたらした三村玄澄^{げんちよう}が尾張藩第10代藩主の徳川斉朝から拝領した膚着^{みむら}なのですが、ご覧になりたくないですか？

名古屋の西本願寺別院に開かれた病院に教師として迎えられたドイツ系アメリカ人のヨングハンスの雇用契約書は英語で書かれていたのでしょうか？

1882年（明治15年）、板垣退助が岐阜で遊説中、暴漢に襲われて負傷した時に診察した医者が誰だったかご存知ですか？ 実は、当時、名古屋大学の前身校である愛知医学校の校長で、後に内務大臣となり関東大震災後の東京の都市復興計画を立案した後藤新平が駆けつけて治療したのでした。

名古屋大学は1871年（明治4年）に、現在は名古屋市中区丸の内、愛知県産業貿易館となっている旧名古屋藩の評定所跡地に仮病院が、また旧名古屋藩の名古屋町奉行所跡地に仮医学校が設立されたことに始まります。

医学部史料室は鶴舞キャンパスの医学部図書館の4階にあり、名古屋大学創設前後からの本学医学部及び東海地区における医学の歴史的発展過程、さらに広く医学史、医療史に関する

資料などを収集し展示することを目的とした教育的施設です。拝領膚着や、名古屋大学最初の外国人教師であり、日本で最初の皮膚移植手術を施したことでも知られるヨングハンス（T. H. Yunghaus）の契約状や、愛知医学校初代校長の後藤新平に関する史料など、古文書から写真、絵画、医療器具まで所蔵しています。

「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」は医学部史料室に所蔵している近代医学黎明期の史料をデジタル化したものです。インターネットで公開することで医学史、医療史の研究に役立てていただくだけでなく、若い世代が医学に関心を持つ契機とする教材としての活用や生涯学習の教材としてのご利用も期待しています。



図1 トップ画面

1. デジタルアーカイブの概要

「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」は2010年10月にプロトタイプを公開後、2011年12月からは正式に公開しています。アドレスは次のとおりです。

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history/>

現在、江戸時代中期から1944年（昭和19年）までの史料の中から50点ほどをご覧ください。

それでは実際の画面を見ていただきながら概要をご紹介します。

図1のトップ画面では医学部の歴史を左の各項目から読むことができます。また右上の検索窓からアーカイブ内を検索することができます。この画面に使用した「明治初年愛知県公立病院外科手術の図」は名古屋大学の二人目の外国人教師であるローレツ（Albrecht von Roretz）の依頼により、愛知県出身の浮世絵画家である柴田芳洲が描いた絵です。左端の襷に眼鏡で麻酔をかけているローレツは、日本語表記として「老烈」を使っていた自身の好みなのでしょうか老人に描かれています。この時30歳そこそこの青年医師でした。中央の片膝立ちの執刀医が後藤新平で、患者の右腕を支える和服に襷姿が、語学の天才で司馬遼太郎の『胡蝶の夢』の主人公の一人としても知られる司馬凌海と伝えられています。

トップ画面の **ENTER** をクリックすると画像が左右に移動して、図2のコンテンツ画面で静止します。

マウスのカーソルをそれぞれの画像（サムネイル）に合わせると画面が左右に移動します。サムネイルをクリックすると史料の詳細が表示されます。

アーカイブは画面下の検索タブから西暦検索、史料名検索、形態検索の3通りの一覧検索ができます。西暦検索のタブをクリックすると時間軸が表示され、マウスで時間軸を左右にスライドさせることでその時代に関連する史料が画面表示されます。図3は1876年時点での関連資料を表示させた画面です。史料名検索では五十音順に史料名の一覧が表示され、関連する史料が画面表示されます。形態検索では古文書、図書、絵画・掛軸、図・絵葉書、写真、医療器具、その他の史料形態ごとの一覧が表示され、関連する史料が画面表示されます。

史料の説明はコンテンツ画面や検索画面でサムネイルをクリックすると表示されます。



図3 西暦検索



図2 コンテンツ画面



図4 詳細画面

この胃鏡は先端が手元の操作により前方に屈曲できます（図8）。桐原教授はこれらの胃鏡を使って600回以上も胃内観察を行い、胃の内部の写真撮影を試み、武井技師の協力のもとに苦心の末、成功しました。

3. デジタル化作業

今回のデジタル化作業では専門業者によるブックスキャナと写真撮影によるデジタル化を行いました。

写真撮影は図9のように医学部図書館4階のゼミ室が臨時のスタジオに変わり、医療器具などを撮影しました。また3階の閲覧室の壁面にある手術図は大きくて移動が困難なため、図10のようにその場をスタジオ風に模様替えして、史料室内の絵画2枚も運びだしてそこで撮影しました。

図9
4階ゼミ室の
臨時スタジオ



図10
3階閲覧室

4. 医学部史料室

1971年に完成した医学部図書館にはすでに4階に100㎡の資料室がありました。しかし、図11のように今日の医学部史料室の姿となったのは1986年から1998年にかけて医学部1954年卒業生の同窓会である旧終会によって卒業30周年記念事業として整備されたおかげです。



図11 医学部史料室

医学部史料室の開室時間は平日の午前9時から午後5時までです。貴重な史料が多いため利用の際には2階にある受付カウンターに申請していただく必要があります。

おわりに

「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」は財団法人日本科学協会平成23年度笹川研究助成による「近代医学黎明期のデジタル教材の開発」の交付を受けて、史料のデジタル教材化を行いました。また、ホームページと検索システムは独立行政法人日本学術振興会平成23年度科学研究費補助金（奨励研究）による「図書館のなかの博物館」の交付を受けて作成したものです。

各史料の説明内容は医学部史料室の開設以来、整備に関わってこられた諸先生、諸先輩からの、言わば受け売りです。収集、保存、継承、そして利用者が必要とする情報を提供することが、医学部史料室を担当する職員の役割です。

医学部史料室を実際に訪れる利用者は比較的遠くからの利用者が多いことが特徴となっています。所蔵史料をインターネットにより公開することで利用者の便宜が格段に向上するとともに、さらに広範な利用が予測されます。このアーカイブが学習・研究などの利用面で多少なりとも貢献できるよう、今後も質・量ともに充実させていきたいと考えております。

（がもう・ひでひろ 医学部分館）